

7 単元の指導と評価の計画 (●時間)

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の内容も参照すること

場面	時	ねらい(●)・学習活動(◆)	重点	記録	備考
習得	1	●ねらい ◆学習活動	知		知①：行動観察
	2	●ねらい ◆学習活動	思		
	3	●ねらい ◆学習活動	態	○	知②：小テスト
習得・探究	4	●ねらい ◆学習活動			
習得	5	●ねらい ◆学習活動			思①：ノート
	6	●ねらい ◆学習活動			
活用	7	●ねらい ◆学習活動			
	8	●ねらい ◆学習活動			
	9	●ねらい ◆学習活動			
探究	10	●ねらい ◆学習活動			

※場合によっては、「概念的理解の探究」で考える授業づくり構想を設定するのであれば、
習得・探究をセットで設定して可。

8 本時の学習

(1) 本時のねらい（育成を目指す資質・能力や目指す生徒の姿等）

(2) 本時の評価規準

(3) 本時で働かせたい見方・考え方

(4) 「探究的な学び」に係る授業構想

本時のねらいや評価規準については、「6 単元の指導と評価の計画」の内容を踏まえて記載する。

本時のねらいや数学的活動の取組をもとに、「探究的な学習における生徒の学習の姿」を捉えた学習活動をどのように展開していくか、主張したいことを簡潔に明記する。

(5) 第●時の展開 ※数学的活動(問題発見・解決の過程)を意識した授業を展開する。

【数学的活動】	指導と学習活動 【予想させる生徒のつまずきや反応】	評価と配慮事項 【教師の見取りと手立て】
【A1】 【A2】 数学化	○本時に関わる事象から数学の舞台へ 1 問題を把握する。 (予想される生徒の反応)	★ICTの活用 問題を視覚的に捉えさせ、課題を見いだすために活用する。
【B】 焦点化	2 見通しを立てる。	
【C】 問題解決	3 問題を解決する。 (1) 自力解決 (予想される生徒のつまずき) (2) 集団解決 4 まとめ(本時のポイント)	[具体的な手立て] 【評価場面】 思①：ノート
【D1】 活用・意味付け 【D2】 統合・発展	5 振り返りを通して、解を解釈したり、条件変更(統合的・発展的に)を考えること。また、転移を図る等。	【評価場面】 態①：シート

ICT(1人1台端末)を活用する際は、ねらいや目的「何のために」を明記する。

9 板書計画(イメージ例)

①問題提示（場面把握、図や吹き出し等）

※電子黒板で提示してもよいが、板書にも残すこと

②めあて、又は、学習課題

③見通し

④生徒の考えや解決方法（図、表、式やグラフ等の数学的な表現）

⑤まとめやポイント等

⑥適用問題

⑦振り返りの視点（必要に応じて）